

俳句

大津俳句会

虫の声ただの草ではなくなりし

井芹眞一郎

紫陽花のリズムうつ音雨も良し

相原 朋子

缶ビール分けて丁度に歳かさね

一上日登美

庭にあり競つて立ちし釣鐘草

大塚喜久子

泥んこの子等の弾ける田植かな

岡崎 浩子

梅雨晴天大きく響く子等の声

佐賀 久子

十年を語り尽くして明易し

佐澤 俊子

曳き手らの魂やどして三社祭

中嶋 清美

俳句

つのはな句会

百日紅の新芽伸びたり手紙来る

塚本 洋子

半世紀咲き継ぐ今日のつつじかな

榮田しのぶ

はぐれ雲梢は藤の花盛り

村田 健二

四角四面肩の凝り解く若葉風

志賀 孝子

五十周年記念の句会きらきらす

田上 公代

見つかりし骨の軽さや梅雨の星

上杉 波

不条理の風吹き荒ぶ麦の秋

矢嶋 道子

水の音故郷にゆうすげ咲くころよ

梅木トキエ

つのはな俳句会

「俳句を語ろう会」に参加してみませんか

毎月第一土曜日 午後一時～四時まで

町民交流施設(通称：オークスプラザ)で俳句会を行っています。初心者大歓迎です。気軽に
お立ち寄りください。 代表者 志賀 孝子

短歌

大津短歌会・野づかさ

指導 阿木津 英

我が里の西原村が住みたい田舎と目の弱き
夫に読みやる

山本 泰子

庭先の牡丹に赤い傘さしし母よ牡丹に笑い
かけつつ

高村 貴子

雨の日の薄暗きへやの長椅子にひる寝の
君は安らかにして

吉田 良子

友笑みてスマホを開き見せくるる玉ねぎ五
十個庭に並ぶを

本田 咲

泣き顔は見飽きたと言いて友のすむ三陸な
がき十四年目よ

田中 玲子

盛りあがる山の緑を見放けつつ曾孫等と
行くミル牧場

豊岡ミツル

何かなし買いきて植えしあやめぐさ株の増
ゆ十五、十六株

小平 善行

野にありて吾も紅だと叫ぶとぞ恋知り始め
し吾亦紅かな

吉永 恵子

灯台の薄あかり見ゆ天草の海は毛嵐たち
ておらむか

坂本 果子

集落の外れに聳ゆる大木は昭和五〇年ころ
植えしタブの木

内田 理